

# よっちゃん だより

vol. 110 9月号

(株)ISO  
余助 康弘

090-1638-5351



## 6つの星～その⑤ 労働～

五番目の星。そこにはガス灯が一本と点灯人がひとり

だけの小さな星だった。質問してみた。

「どうしてガス灯を消したの？」 点灯人「そういう指示なんだ」

「どうしてまたガス灯をともしたの？」 点灯人「そういう指示なんだ」

「わからないよ!!」 点灯人「わかる必要なんてない!! 指示は指示だ!!」

この人は、他のどの人(王さま、大物キどり、酒びり、実業家)にも見下されると思  
った。それは、ずっと自分自身以外のことを一生懸命しているから

だろう。友だちになれそうだったのはこの人だけだったか？

星が小さすぎたため 介後に、

もっと自分の時間を大切にしてほしい。



## ～その⑥ 学問～



六番目の星には、地理学者のおじさんが住んでいた。  
おじさんはずっと研究室にいらるので、自分の星に海や  
川、街、山、砂漠があるかも知れない。

不思議に思い「地理学者なんてしよ？」と質問おじ  
外に出て調べるのは探検家で、地理学者の仕事は重要  
だから研究室にいらして言う。どうも自分で調べろといふこと  
はしないが、部屋にこもって学んでいようである。

王子さまは、「はかない(ほじく消えるおとめがある)ということも

おじさんより学び、自身の星に残りきったバラの花に対し痛  
思いがわいてきた。王子さまは聞いた「木からどこへ訪ねれば  
いいでしょう？」 おじさん「地球を訪ねなさい」王子さまは  
花のことを思い星を後に。

## ニアピールできないお

今月、君の誕生日があり、私の誕生日もある!! 毒のほうか10日  
ほど早くその日がやってきました!! ところが完全に私の頭から忘れ  
ていて... 10日後にきた、私の誕生日は、当然のように  
スルー... 来月、素直に謝って 2人で何かをしたい  
と思うのでした つづ